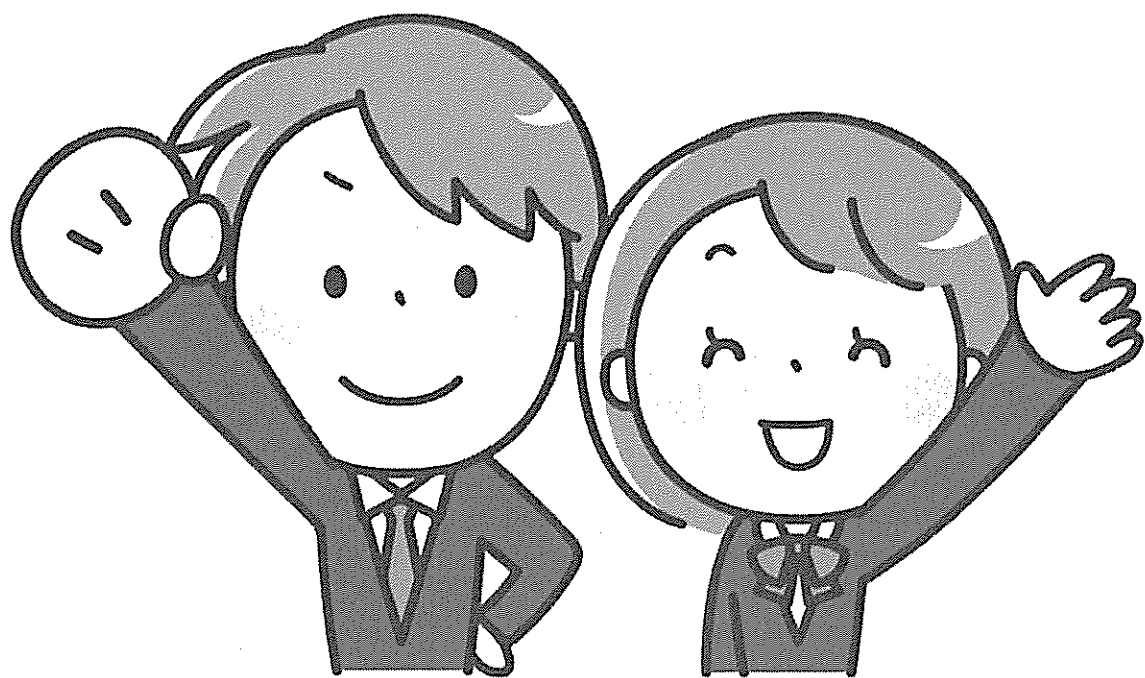


令和5年度

地域づくり活動応事業援

実績報告集

(高校生枠)



兵庫県西播磨県民局

目 次

(事業名)	(実施団体)	
1 生物多様性龍高プラン 龍高生による生物と自然環境保全活動	兵庫県立龍野高等学校	…1 頁
2 太子ふるさと育成事業	兵庫県立太子高等学校	…4 頁
3 相高地域貢献・魅力発信事業	兵庫県立相生高等学校	…8 頁
4 赤穂高校ふれあい活動	兵庫県立赤穂高等学校	…10 頁
5 上郡町コミュニティデザインプロジェクト	兵庫県立上郡高等学校	…12 頁
6 佐用町つながり活性化プロジェクト	兵庫県立佐用高等学校家政科	…15 頁
7 山高が地域を元気にするⅡ	兵庫県立山崎高等学校	…19 頁
8 伊和高生 発酵のふるさとPR事業	兵庫県立伊和高等学校	…21 頁
9 ちくさ地域力UPプロジェクト	兵庫県立千種高等学校	…23 頁
10 地域との連携・協働による伝統文化の継承と 地場産業および地域の活性化	龍北総合D科後援会 【兵庫県立龍野北高等学校(全日制)】	…25 頁
11 高校生の店 龍北工房	高校生の店 龍北工房 【兵庫県立龍野北高等学校(定時制)】	…28 頁
12 地域をつなぐ相産定時制	兵庫県立相生産業高等学校(定時制)	…30 頁
13 播特発！「たつのコミュニティ」の創生	兵庫県立播磨特別支援学校	…32 頁
14 自然科学わくわく探究教室	兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部	…34 頁



事業実施報告書

事業名：生物多様性龍高プラン 龍高生による生物と自然環境保全活動

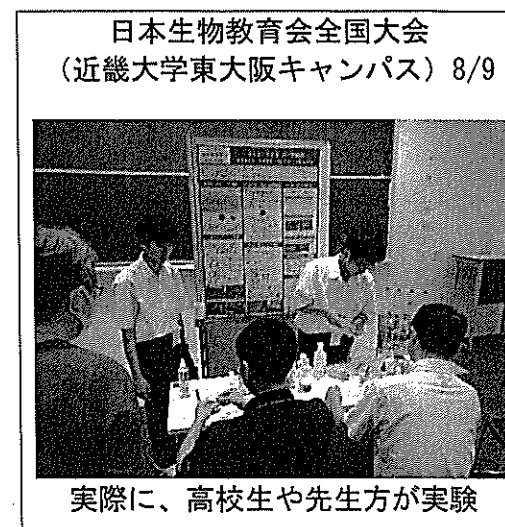
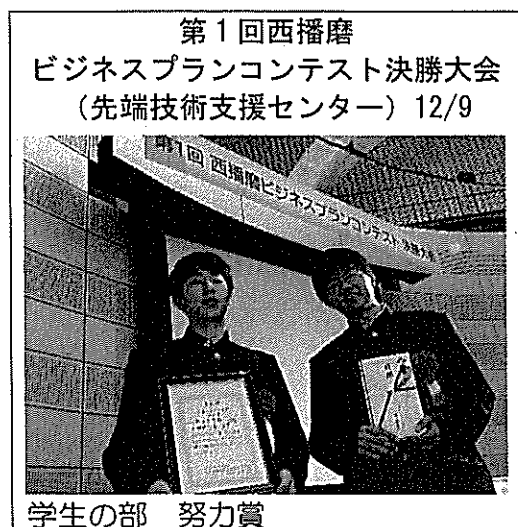
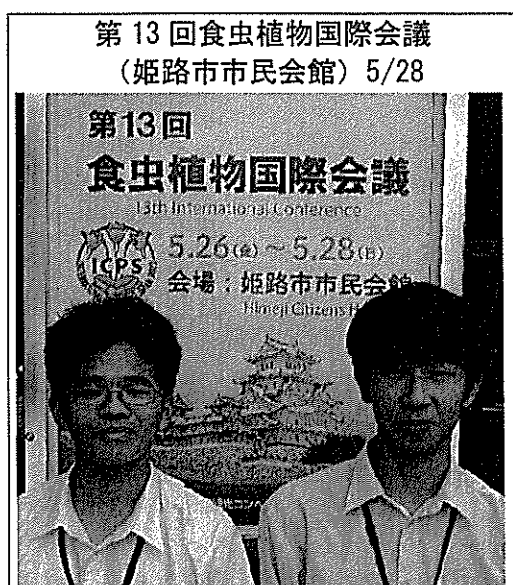
団体名：< 兵庫県立龍野高等学校 >

所在：兵庫県たつの市龍野町日山 554

代表：塚本 師仁

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に恵まれていた西播磨の現状は、シカの大量増殖により里山の林床は荒廃し、放棄水田の増加にともないため池の減少や管理放棄が多くなっている。その結果、里山の動植物や水辺の動植物が激減している。この状況は、十分に県民に知られていない。また、児童・生徒の遊びは電子ゲームが主となり、自然遊びが少なくなった。その結果、動植物など自然に興味関心をもつ児童・生徒が減少している。これらの現状を改善するために以下を課題として設定した。 ・ いかにして、地域の自然環境や生きものたちを守るか。 ・ いかにして、県民に地域に貴重な自然環境や生きものを知ってもらおうか。 ・ 将来自然環境保全の取り組みをする人材育成を見据えて、いかにして、児童・生徒に身近な自然や生きものに興味関心を持たせるか。 <p>これらの課題を解決するための事業が「生物多様性龍高プラン」である。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 希少植物の自生地の調査：ヒシモドキ サギソウ ササユリ ギンランなど ② 自生地の保全活動と生息域外保全：鉢やプランター栽培に校内の里山の活用 ヒシモドキについてはアメリカザリガニの食害防止策を研究し対策を考案する。 ③ 研究活動として、栽培方法 無菌培養の活用方法 造成した人工湿地を活用する。 ④ 啓発活動：児童・生徒を対象とした科学イベントへの出展や学会発表に参加する。 				
地域	たつの市を中心とした西播磨地方				
事業の効果	<p>これまでの継続的な調査・観察により、兵庫県では1か所にしかないヒシモドキの個体数が回復傾向にある。</p> <p>これまで継続的に研究してきた高価な設備を必要としない絶滅危惧植物サギソウの無菌播種技術を活用して、「ほんまにできるバイオ実験」として学会等で普及活動をおこない多くの生徒・先生方に知ってもらうことができた。</p> <p>優れた環境教育の事例として「生物多様性龍高プラン」は、環境省の「環境教育・ESD教育実践動画100選」に認定された。</p> <p>これまでの研究で得た知見により、生物系科学コンテスト「バイオサミット in 鶴岡」に2回の予選を通過し全国から20チームが参加する決勝大会に出場した。</p> <p>結果、審査員特別賞を受賞した。</p> <p>これまでの研究成果を活用して商品開発をおこない、「西播磨ビジネスプランコンテスト」決勝大会に参加し、学生の部で努力賞を受賞した。</p>				
通年		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	校内における生息域外保全	龍野高校	絶滅危惧植物の保全 ヒシモドキ・ムラサキ・オチフジ・フウラン・ノジギク・フジバカマ・オキナグサなど		7人

通年	自生地の 保全活動	西播磨各地	食虫植物群落 サギソウ・ヒシモドキ・オニバ ス・ササユリ・オオツルコウジ・ ホソバナコバイモ・セツブンソ ウ		7人
通年	研究活動	校内・自生地	高価な設備を使わない絶滅危惧 種サギソウなどの無菌培養によ る増殖技術開発。ヒシモドキの 保全		7人
7 月 2 月	研究報告	科学館 博物館 大学など	「兵庫県産ヒシモドキを絶滅か ら守る」 「ほんまにできるバイオ実験」	聴講者多 数	7人
5 月 8 月	啓発活動	手柄山植物園 姫路科学館 県立大工学部 太子町環境体 験施設	食虫植物展展示協力 サギソウ展展示協力 科学の屋台村 青少年のための科学の祭典 食虫植物等の展示	来場者多 数	7人



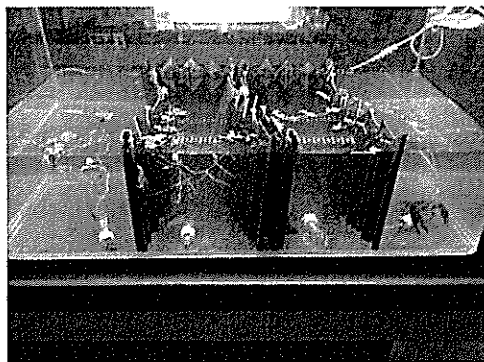
絶滅危惧種サギソウ自生地での保全
(たつの市)



桜山公園まつり 科学の屋台村 7/22
(食虫植物・絶滅危惧種の展示実験)







絶滅危惧種ヒシモドキの保全 5/31
(実験室で、食害に関する実験)



絶滅危惧種ヒシモドキの保全 7/12
(自生地で、食害に関する実験)



<p>協働の相手方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市立手柄山温室植物園：サギソウ展・食虫植物展での出展 ・太子町(まちづくり課)：総合公園柳池の活用 展示 ・兵庫県立大学理学部(施設課)：ササユリ・ギンランの保全 ・自生地のある各自治会・土地管理者 		
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西播磨産の絶滅危惧種の生息域外保全を校内・太子町総合公園柳池で継続する。 ・これまで開発した絶滅危惧種の増殖技術について、他の植物への応用を考える。 ・成果についての公開や啓発活動を推進する。 ・クリーンベンチ・オートクレーブなど高価な設備を必要としないバイオ実験マニュアルをつくる。 ・街中の緑化推進のため、ローコスト・ローメンテナンスで維持管理できる植栽について調査研究する。また近隣の里山におけるシカの食害状況を観察し、食害に強い植物の活用を考える。 		
 <p>生物多様性龍高プラン</p>	 <p>龍高自然科学部</p>	 <p>環境教育動画 100 選</p>	 <p>太子町総合公園植物図鑑</p>

事業実施報告書

事業名： 太子ふるさと育成事業

団体名： < 兵庫県立太子高等学校 >

所在：兵庫県揖保郡太子町糸井 19

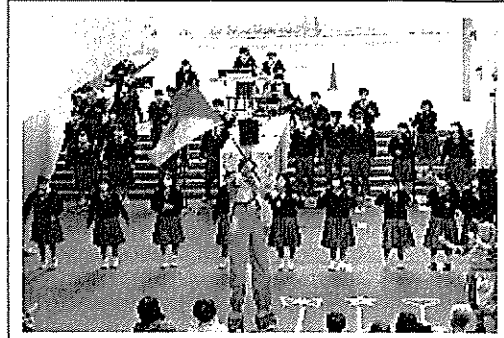
代表：校長 榎谷 英樹

目的	<p>安心・安全で豊かなまちづくりのため、世代や国籍を超えた地域コミュニティーの場を多様に設置し地域の絆を育てる。地域の住民や団体が協力して、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行う。</p>
事業内容	<p>1 「みんなのおてらでSHOW！」 (1) 太子町や教育委員会・商工会議所等との協働で太子町の斑鳩寺を中心にした太子町のまちづくりの活性化に取り組む。 (2) 太子町や福祉施設との協働で、太子町在住の外国人の方々も交えて世代間交流の場を設ける。 (3) 高校生のフレッシュなアイデアを発信し、町民主体のまちづくりに積極的に取り組む。 (4) 高校生が参加することにより、様々な年代の人をつなげる役割を担う。</p> <p>2 「地域のみなさんありがとう！」 (1) 少子高齢化が進む近隣地域の清掃や資源回収作業を地域の方々と一緒にを行う。 (2) 地域の清掃作業を行う。 (3) 学校近隣の住宅にポケットティッシュ等にメッセージを添えて届ける。</p> <p>3 「ゆめの木プロジェクト2」 (1) 1昨年前に制作したゆめの木に花を咲かせる。 (2) 太子町内の学校園所にゆめの花のメッセージカードを配布し、メッセージを書いてもらう。 (3) ゆめの木にメッセージの花を咲かせ、イベント会場や太子町庁舎にて披露する。</p> <p>4 「地域貢献交流活動」 (1) Jコーラス部が発表会に地域の方々を招き、地域での活動発表と交流の場とする。 (2) 近隣施設等で地域の方々と交流する場を設ける。 (3) 地域の方々にもステージ発表に参加していただく。 (4) 歌声募金を実施する。</p> <p>5 「太子高校着付け部」 (1) 有志で着付け部を結成する。 (2) 浴衣の着付けを学ぶ。 (3) 太子夏会式や国際交流の場で海外の方々に浴衣の着付けを行い、和の町太子を味わってもらう。</p> <p>6 「国際交流コミュニティー」 (1) 姉妹校との国際交流の場を地域の人に参加できる機会をつくる。 (2) 台湾の生徒に日本の良さを知ってもらうため、地域の人材に活用していただく場をつくる。</p>
地域	太子町

事業の 効果	<p>1 太子町や地域住民と協働することで、学校と地域との連携が深められ、連携が強化された。</p> <p>2 参加した高校生自身に、地域とそこに住む人々に対する愛着が生まれ、地域や行政への関心度が向上した。</p> <p>3 参加した生徒が親になった時に、ふるさとで子育てをしたいと思える取り組みができた</p> <p>4 学校が主体となって事業を推進することで、学校に対する理解や信頼が進んだ。</p> <p>5 ボランティア活動に参加する際の基本的な心構えを身につけることができた。</p> <p>6 太子町の施設を利用することで、活動を知ってもらう機会が広がり、地域の方々との交流の幅を広めることができた。</p> <p>7 授業で学んだことを生かすことで、生徒の知識の習熟度を高め生きた学力を育成させることができた。</p> <p>8 昨年実施した取り組みを発展させることにより、地域とのさらなる結びつきや地域活動の意義をより深く感じることができた。</p> <p>9 高校生がまちづくりに参加することで、「人にやさしく」「個性的で活力のある」ふるさとづくりができた。</p> <p>10 高校生がまちづくりに参加することで、若者の視点・センスを活かした情報発信が活かされた。</p> <p>11 多様な大人や友人との関わりの中で、自己形成をすることが可能になった。</p> <p>12 地域の方々に国際交流の場を提供することにより、日本文化の発信や地域コミュニティーの活性化を図ることができた。</p> <p>13 少子高齢化で困難になった地域行事の担い手となった。</p>					
	事業 経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ 数
		4月2日	斑鳩寺	奉納揮毫 書道部が地域のプロ奏者とJコーラス部の演奏に乗せて、和の精神を書で表現した。	約100名	3名
		5月5日	兵庫県立 こどもの館	子どもフェスティバル 放送部とJコーラス部が機材準備・司会・ステージ発表を行いイベントを盛り上げた。	約500名	2名
		6月3日	糸井池田自治 会内	糸井池田自治会溝掃除 運動部を中心とした有志生徒が高齢化が進んでいる自治会の溝掃除を行った。	約30名	1名
		7月30日	太子町庁舎	日本語教室ゆかた交流会 太子町の日本語教室に通う外国人のみなさんと浴衣で交流した。	約80名	1名
		本番 8月21日	準備 本校 本番 斑鳩寺	夏会式 夏会式でゆめの木・ブース出店・ステージ発表・ゆかたの着付けを行うため、準備を重ね当日を迎えました。	準備 約100名	5名
		10月17日	学校近隣住宅	メッセージ付きティッシュ配り 全校生徒が1人1枚メッセージカードを作成しポケットティッシュに入れて、クリーン作戦時に近隣住宅に配布しました。	600名 (全校生)	3名
		11月3日	斑鳩寺	みんなのおてらでSHOW! あすか会との協働で、太子あすかふるさとまつりと同日開催で斑鳩寺で地域の音楽愛好家の方々とまちづくりイベントを行いました。	当日約200名 ゆめの木に付ける葉っぱのメッセージ書きは太子町内小中高生全員	2名



奉納揮毫 4月2日



こどもフェスティバル 5月5日



糸井池田溝掃除 6月3日



夏会式準備 着付け練習



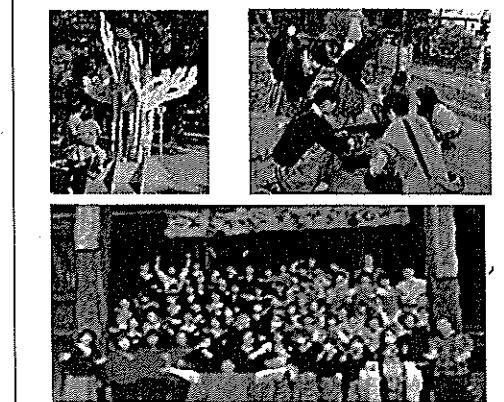
夏会式準備 ゆめの木制作



夏会式 8月21日



メッセージ付きティッシュ配り
10月17日



みんなのおてらでSHOW! 11月3日

協働の相手方	①太子町 ②太子町教育委員会 ③兵庫県立こどもの館 ④あすかの家 ⑤太子町商工会 ⑥太子日本語学習支援ボランティアグループ ⑦近隣自治会
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> 1 従前のものは今年度の反省を生かし、より主体的で中身の濃い活動に展開させることで、社会に貢献する喜びを味わわせる。 2 地域各所と協働・連携した企画・運営の活動を展開させることにより、地域で生きる大切さや地域の一員であることを強く認識させ、自己肯定感を高めていく。 3 活動地域をさらに拡大し多様化することで、学校を知ってもらう機会が増える。。 4 太子町との協働や継続した活動を行うことにより、まちづくりの活性化がさらに期待され、貢献度が増す。 5 地域の大人と協働することにより、ふるさと太子に「こころをよせる」「そこにかかわる」で、今までの「ふるさと」に対する愛着、帰属意識が一層高まるとともに、これから自分が生きていく新しい場所を「ふるさと」と思い大切に作る気持ちを育む。 6 従前の取り組みにより得た人とのつながりを充実させることにより、共に生きる共生の心を育て、「地域とともにある学校づくり」を推進する。 7 地域在住の外国人との交流や支援を推進し、地域コミュニティーの活性化の手段の1つとすることにより多文化共生の心を育む。

※ 地域ふれあいコンサート2月11日開催予定

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 相高地域貢献・魅力発信事業

団体名： < 県立相生高等学校 >

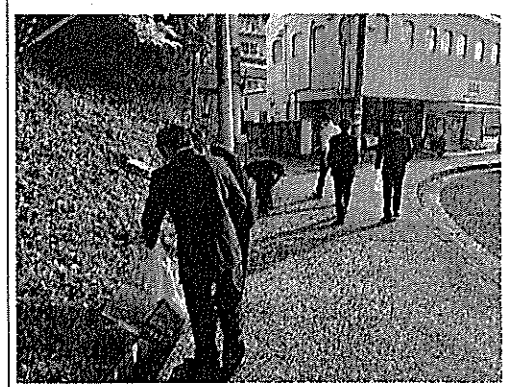
所在：相生市山手1丁目 722-10

代表：校長 小田 昌史

目的	本校のある相生市は、かつての花形であった造船業の栄えた港町である。造船業の後退により人口は激減し、現在も人口減少の歯止めをかけるために、様々な事業を展開している。歴史に目を向けると、播磨第二の大荘園「矢野荘」があり、荘園がまるまるそのまま地方公共団体になった数少ない例の一つである。京都の有名な東寺の所有した荘園でもあり、荘園研究の一級資料である「東寺百合文書」が残存し、史料も豊富に残っている。そのため、相生の歴史を学ぶことにより、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさと相生の活性化につなげていきたい。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのふれあいや交流等、地域貢献を図る。・相生歴史巡検を実施し、ふるさとの歴史を学び、魅力を再発見することにより、ふるさと相生の歴史的魅力をクリアファイルや学校HPでの歴史巡検資料の作成により、市民やふるさと相生の活性化につなげていく。・学校行事（文化祭、体育大会、公開授業など）を地域に情報発信することで、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進し、学校文化の広がりや地域の教育文化の拠点としての役割を担う協働実践を図る。				
地域	相生市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none">・本校の挨拶運動が、相生市の表彰を受けたり、相生のミニコミ誌に掲載されたり、地道に地元と連携して活動が続けられている。これを継続することにより、地元で愛される学校になることが期待できる。・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）との連携で、ふるさと相生の歴史を多面的に学ぶことができる。ふるさと相生の魅力を探求し、クリアファイルや学校HPの歴史巡検資料を作成して地域の人々に配布し、地域とのつながりの深化が期待できる。継続的に活動を実施し、相生市の観光資源へとつなげる懸け橋としていきたい。				
		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
経過事業	毎月1回	相生駅前 (南北ロー列)	さわやか挨拶運動 クリーン作戦	200名	8名
	11/1	学校から相生 駅周辺	通学路清掃	125名	11名
	9/24	相生市内	歴史巡検	5名	3名
	9/26～ 2/9	学校内	歴史巡検HP資料作成 クリアファイル原案作成	12名	3名



4/28 挨拶運動
爽やかな挨拶を心がけました。



4/28 クリーン作戦
相生駅ロータリー付近を美しく！



11/1 通学路清掃
感謝の心を持ってゴミ拾い。



9/24 歴史巡検
地域の魅力を再発見しました！

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

<p>協働の相手方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館） ・山手1丁目自治会
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前（南北）で実施する「さわやか挨拶運動」や「通学路清掃」を実施・継続することで、自治会や地元とも連携を深め、地域に親しまれ愛される学校になっていく。 ・ふるさと相生の歴史的魅力を再発見するために、相生歴史巡検のクリアファイルを製作して挨拶運動で配布を行う。また、学校HPの歴史巡検資料で魅力をアピールし、ふるさと相生の魅力発信に貢献する。

事業実施報告書

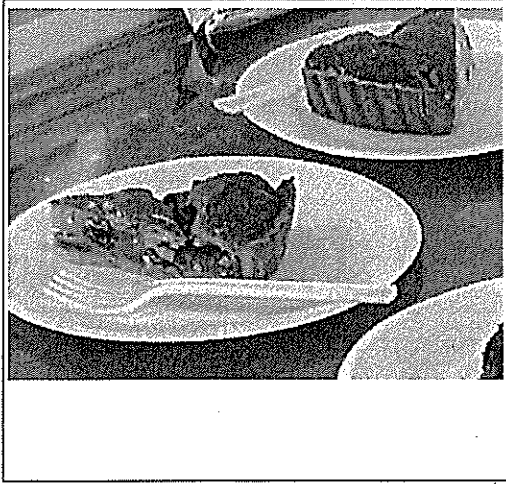
事業名： 赤穂高校ふれあい活動

団体名： < 兵庫県立赤穂高等学校 >

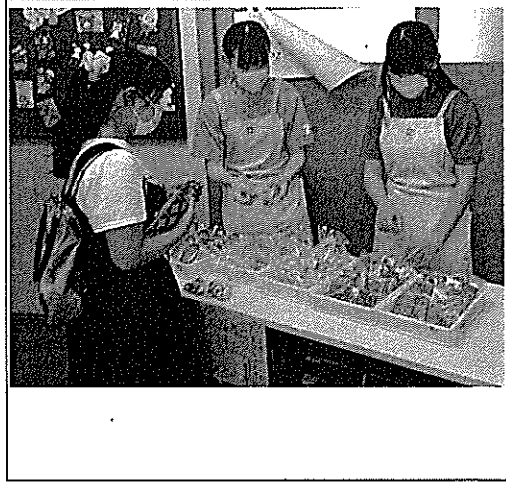
所在：赤穂市海浜町 139 番地

代表：校長 大角 謙二

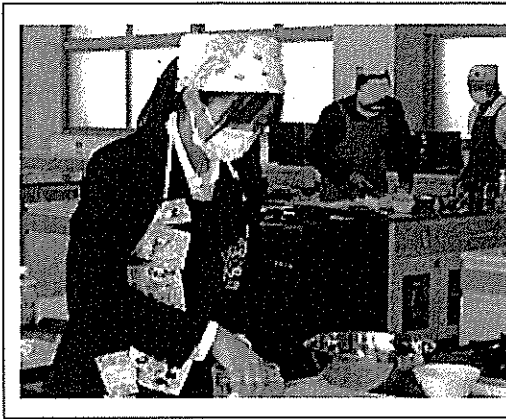
目的	地域の他世代の人とのふれあい活動を増やし地域について理解し愛着を持てる活動を行う。赤穂市についての再認識、自分たちが普段何気なく見過ごしていたことを見つけて高校生活を楽しむ。赤穂市の特産物や伝統料理について学ぶ。次の子育て世代としての児童観の育成を図る。				
事業内容	(1) 赤穂の特産物を利用した新たなお菓子の製品化を目指し、お菓子作りを行った。 (2) あこうこども食堂でお菓子製作のボランティア活動を行った。 (3) 教科「子どもの発達と保育」選択生徒が製作したおもちゃを赤穂東児童館にプレゼントした。 (4) 赤穂市保健センター・いずみ会の方に1人暮らしの料理について学んだ。 (5) 教科「生活と福祉」選択生徒が製作した手芸品をデイサービスセンターしおさいにプレゼントした。 (6) 規格外のいちごをまるおファームから提供いただきお菓子の開発を行った。				
地域	赤穂市				
事業の効果	赤穂市保健センターの方を通じ、ボランティア団体いずみ会の方との交流を行い、他世代の方との交流することにより、高校生に求められていることがわかり、コミュニケーション能力が高まる。こども食堂でのボランティアを通じてボランティア活動について学べ、地域のこどもやボランティア活動されている人とかかわることにより、成長できる。地域の農家の方と交流することにより、赤穂について深く知ることができる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	4~3月	赤穂高校 あこうこども食堂	こども食堂お菓子作り、配布	23人	10人
	5~6月	赤穂高校	いちごを使用したお菓子の開発	20人	20人
	6月	赤穂高校	文化祭にていちごのお菓子販売	20人	20人
	7~12月	赤穂高校	赤穂東児童館・デイサービスセンターしおさいへのプレゼント作り	52人	
	11月	赤穂高校	赤穂市保健センターより、いずみ会の方を講師に招き、一人暮らしのための料理講習会を行った。	39人	4人
	1月	赤穂東児童館 デイサービスセンターしおさい	赤穂東児童館に絵本、デイサービスセンターしおさいにぬいぐるみのプレゼント	4人	4人



6月5日 いちごタルトの試作



6月20日 文化祭でのお菓子販売



11月8日 いずみ会の方との交流



1月23日 デイサービスセンターしおさいでの交流

<p>協働の相手方</p>	<p>あこうこども食堂 デイサービスセンターしおさいセンター 赤穂東児童館 まるおファーム</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今後も、赤穂東児童館・赤穂市内の保育所との交流を定期的に行っていき、子どもたちや保護者の方とのかかわりを通して、生徒たちが地域貢献や、地域の方に学ぶ姿勢をもてるようにしていきたい。</p> <p>今年度も、赤穂義士祭にてお菓子の販売を行うことができた。さらに赤穂の特産品を使用したお菓子の製作を調理部員全員が作れるように試作を重ねたい。赤穂市の農家の方とさらに連携し、特産物を使ったお菓子の開発を進め、赤穂の食文化について学び、伝統食の伝承や特産物の斬新な利用についてさらに研究していきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名：上郡町コミュニティデザインプロジェクト

団体名：< 上郡高等学校 >

所在：赤穂郡上郡町大持207番1

代表：村中 利章

目的	上郡町が抱える諸課題（観光産業の活用、少子高齢化、特産品の知名度など）に伴う地域経済の衰退に対し、地元の高校生が町内諸機関と連携してイベントや特産品開発を主として地域活性化の一助を担う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・上郡町をPRするための動画作成や上郡町の資源を生かしたビジネスプランを考え、発信する。・上郡町健康増進をはかるために、誰でもできる体操を開発し、発信する。・町内で生産されるイチジクや鞍居桃の市場に出ない部分を用いてドライフルーツ化し、ネットでの販売促進を行う。				
地域	赤穂郡上郡町				
事業の効果	・高校生の目を見た地域の活性化について将来構想を発信することで、町の関係機関、商業施設や産業への活性化の原動力となる。また、高校生自身は、この取組で自己有用感を味わえ、課題解決能力も身につく。さらに、今後各自が自分のふるさどについて考え行動する姿勢を身につけることができる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月～12月	上郡町内飲食店 上郡アルプス白旗城	上郡町内観光マップの作製 上郡町PR動画作成	14名	2名
	5月～12月	上郡高校	健康体操動画の作製 おさんぽマップの作製	10名	3名
	5月～12月	上郡高校	活性化プランの作成	84名	4名
	9月～12月	上郡駅前	上郡イルミネーションの作製	10名	2名

写真「広報（白旗城まつり動画）」
（11月23日）

上郡町赤松地区で実施された白旗城まつりに甲冑隊として参加し、撮影した動画を編集し、祭りの魅力を発信する動画を作製した。

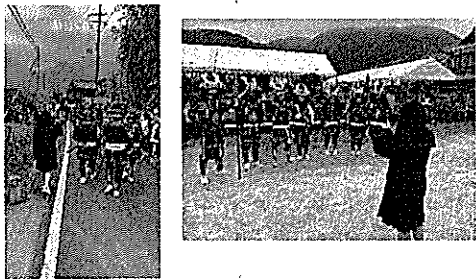


写真 商品開発「ドライイチジクジャム」
（6月～12月）

上郡町内で生産されているイチジクの規格外を使ってドライフルーツ化を計画。さらにドライイチジクいりのジャムの制作を行った。

写真は、イチジクを分けていただいた農家さんとジャムの試作品。今後は商品化に向けてのパッケージなどが課題。



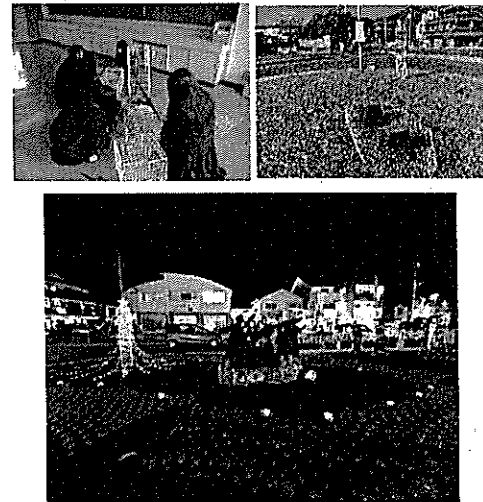
写真 健康福祉「ゆるふわリハビリ体操」
（6月～12月）

9月から上郡町の健康増進を図るために、誰でもできる体操を考え、体操動画を作成し、各施設に配布するチラシを作製。写真は撮影の様子とチラシ。右下のQRコードで動画を見ることができる。



写真 都市デザイン「駅前イルミネーション」
（6月～12月）

今年で4回目となる駅前イルミネーションを作製。塔の上のラプンツェルをイメージしたテーマ性のあるデザインを考え、より駅前が華やかになるように工夫しました。写真は制作中の様子と点灯式（12月15日）の様子



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・上郡町商工会 ・上郡町産業振興課 ・上郡町健康福祉課 ・上郡町観光協会 ・上郡町社会福祉協議会 ・上郡旧市街および上郡町内飲食業組合 ・ひがし蔵 ・日本政策金融公庫神戸創業支援センター ・早稲田大学人間科学学術院佐藤将之教授
今後の展望	<p>①上郡町の魅力をPRする「広報活動」の視点においては、町内企業との継続的な交流を通し、動画配信サイトを用いて積極的に町外への発信を行いたい。また伝統を維持・継承する目的として上郡赤松地区で製作されている手作り鎧兜を上郡高校生が担っていく必要がある。</p> <p>②本年度は「イチジクのドライフルーツ」を商品開発として行った。「イチジクのドライフルーツ」は、昨年度から継続してドライイチジクを改良しジャムの開発を行い、商品化を目指したが、パッケージや販売ルート等の課題が残っているので、商品化を目指して継続して取り組みたい。</p> <p>また、上郡町の持続可能な活性化を目指して、ビジネスプランや商品開発プランの創出を行ったが、アイデアの創出のみで終わってしまい、実現させることができなかった。高校生の斬新なアイデアをブラッシュアップし、現実的で継続的な活動とその実現に結び付けていきたい。</p> <p>③上郡駅前イルミネーションの製作も本年度で4回目となった。少しずつノウハウが蓄積されているので内容の充実を図り、イルミネーションの作製だけにとどまらず、駅前イベントを計画、実施していきたい。</p> <p>④都市デザインについては、町の取り組みとさらに連携をとり、実現可能性の高い取り組みに結び付けていきたい。また、持続可能な地域活性化の在り方について継続して取り組んでいきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 佐用町つながり活性化プロジェクト

団体名： < 兵庫県立佐用高等学校家政科 >

所在：佐用郡佐用町佐用260

代表：大塚 幹典

目的	高校生のパワーで佐用町のつながりを深める！ 教科「家庭」の各分野について学習内容を地域の中で実践し、地域活性化を目指す。 ①ファッションショーや衣装制作を通して、地域の多世代の人々が交流できる機会を作り、高校生が幅広い年齢層の中心となって活動し、地域社会の活性化に貢献する。 ②佐用町と佐用高校家政科の研究活動を紹介するイベントやワークショップを企画し、佐用町内外の方々に佐用の魅力を発信する。 ③佐用町の特産品や伝統産業「皆田和紙」を用いた衣装や小物制作に取り組み、佐用高校オリジナルブランド「S. homio」の販売活動を行うことで佐用町のPR活動につなげるとともに地域の特産物、伝統産業の可能性を探り、生徒の様々な力を育む。
事業内容	上記の目的を達成するために、以下の活動を実施した。 (1)多世代交流型ファッションショー (2)イベント企画 (3)特産品、伝統産業の発信
地域	佐用町

事業の効果

(1)多世代交流型ファッションショー

佐用保育園、さよう子育て支援センターの施設利用者の方々に衣装を製作し、さよう芸能発表会で「sayo collection2023」と題したファッションショーで共演した。佐用保育園では、衣装製作だけでなくステージで披露するダンス練習による交流会も実施した。さよう子育て支援センターでは、モデル依頼、採寸、デザイン調査、衣装製作などの事前交流を行い、生徒自身が計画を立てて実行した。ファッションショーを軸に、様々な世代と交流を深めて地域イベントを盛り上げ、地域貢献活動に繋げることができた。

(2)イベント・講習会企画

古民家で「高校生カフェ 2023 in平福」を実施し、生徒の研究成果発表の場を作ることができた。皆田和紙を用いた衣装を飾り、生徒によるミニファッションショーを2回行い、食分野だけでなく被服分野からもイベントを盛り上げた。イベントには町内外から約40名参加され、家政科の取組や佐用町の良さを知っていただくことができた。佐用の特産品や伝統産業の発信を継続することによって、周囲からの関心や期待も高まっている。また、防災とファッションを関連付けた減災ワークショップを企画し、佐用小学校でキャンディーレイ作りの講習会を実施した。イベントや講習会を一から企画することで、生徒自身に大きな達成感があり、企画力やコミュニケーション能力の向上にも繋がった。

(3)特産品・伝統産業の発信

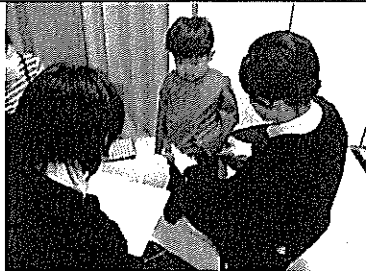

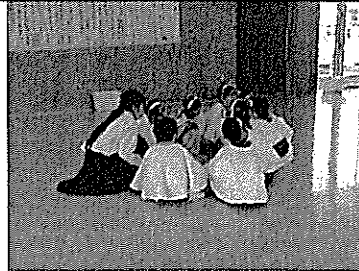
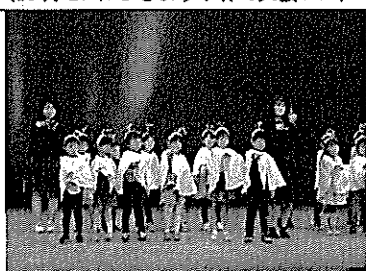


佐用町の伝統産業である皆田和紙を使った衣装製作と商品開発に取り組み、イベントで発表・展示・販売活動を行った。昨年度、イギリスの大英博物館に製作過程などの情報を提供した紙衣をベースに衣装製作を行った。また、商品開発では、オリジナルブランド「S.homic」を継続し、皆田和紙を使ったキーホルダーとしおりの開発・販売活動に成功した。神戸ハーバーランドスペースシアターで皆田和紙ファッションショーと商品販売を行い、町外でPR活動できた。また、コンテスト応募にも積極的に取り組み、全国高校生ファッションデザインコンテストに入賞した。

これらの活動は、生徒の企画力・実践力を育むと共に、地域の方や継承活動を行っている方と交流することで地域理解が深まり、地域に愛着を持つことができた。

事業経過

日程	(1)多世代交流型ファッションショー	(2)イベント・講習会企画	(3)特産品・伝統産業の発信
5月	衣装づくり	準備(展示物)	皆田和紙を用いた衣装デザイン、商品デザインの検討
6月	デザイン検討、チラシ作成	17日佐用高校文化祭にて「Sayo high school fair」実施(スタッフ8名)	デザイン検討、試作各種コンテスト応募
7月	佐用高校にて採寸、交流(子どもモデル5名、保護者6名、生徒5名)		作品製作
8月			
9月	衣装製作	準備(展示物)	衣装、小物製作
10月	衣装製作、ウォーキング練習 佐用保育園訪問2回(ダンス練習) リハーサル(出演者全員参加)	準備(展示物、講習会)	衣装、小物製作 各種コンテスト応募
11月	3日さよう芸能発表会@さよう文化情報センター「sayo collection2023」実施(生徒24名、子どもモデル5名、保護者10名、保育園モデル32名)	5日高校生カフェ@お休み処瓜生原にて展示活動(生徒24名、お客様約40名) 22日減災ワークショップ@佐用小学校(生徒16名、小学生45名)	3日さよう芸能発表会@さよう文化情報センターファッションショーで衣装披露 18日兵庫県高等学校総合文化祭@神戸ハーバーランドスペースシアターにてファッションショー、商品販売 19日三日月収穫祭@味わいの里三日月にて商品販売
12月			
1月	衣装製作		コンテスト衣装製作
2月	ウォーキング練習		3日全国高校生ファッションデザインコンテスト最終審査@神戸朝日ホール
3月	5日施設訪問@いちよう園、播磨園にてファッションショー実施(予定)		


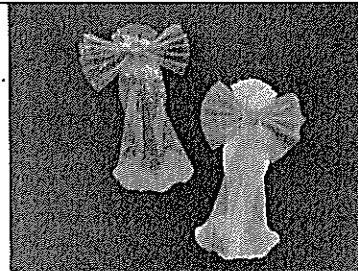
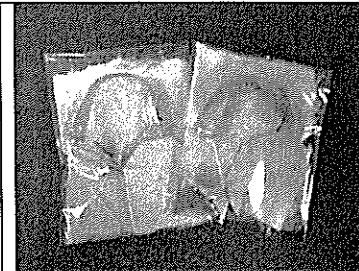



(1) 多世代交流型ファッションショー

		
試着 (10月27日@さよう子育て支援センター)	ダンス練習① (10月12日@佐用保育園)	ダンス練習② (10月27日@佐用保育園)
		
Sayo collection2023① (11月3日@さよう文化情報センター)	Sayo collection2023②	Sayo collection2023③

(2) イベント・講習会企画

		
高校生カフェ (11月5日@お休み処瓜生原)	高校生カフェ・ファッションショー (11月5日@お休み処瓜生原)	キャンディー・レイ作り (11月22日@佐用小学校)

(3) 特産品・伝統産業の発信

		
皆田和紙衣装	S. homie 「ドレスキーホルダー」	S. homie 「ブックマーカー」
		
商品販売 (11月18日@神戸ハーバーランド 他)	皆田和紙衣装展示 (11月18日@神戸ハーバーランド 他)	ファッションショー (11月18日@神戸ハーバーランド 他)

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none">・ さよう子育て支援センター・ 佐用町立佐用保育園・ 皆田和紙保存会・ 社会福祉法人佐用福祉会いちょう園・ 社会福祉法人くすのき会播磨園・ 平福お休み処「瓜生原」・ 平福文化と観光の会・ 平福地域づくり協議会・ 佐用小学校
今後の展望	<ul style="list-style-type: none">・ ファッションショーに一層工夫を凝らして地域と協働で作り上げる・ イベントに参加し、皆田和紙や佐用高校の取り組みを発信することでPR活動を行っていく。・ オリジナルブランド「S. homie」の定着を図るため、開発した商品の作り方を記録に残し、改善や新商品の開発につなげる。

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 山高が地域を元気にするⅡ

団体名： < 兵庫県立山崎高等学校 >

所在： 宍粟市山崎町加生 340

代表： 武田 由哉

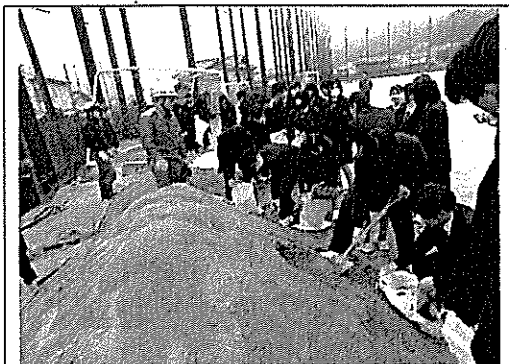
目的	少子高齢化が進む現在、宍粟市においても例外ではない。また高齢者の一人世帯も増加し昔に比べ地域の力が衰えている。そのため、田畑およびそのあぜ道の刈払も高齢者世帯においては困難な状況である。また、高齢者世帯が増えており、孤独な高齢者を増やさないための支援が必要である。				
事業内容	本校の専門学科、生徒会でプロジェクトチームを結成し、協働の相手方と連絡をとりながら「山高街の駅」をイオン山崎店や加生公民館で実施し、その時に作成した焼き菓子等を独居老人宅へ訪問配付を行う。刈払に関しては、需要のある地域を事前に調査し、本校で刈払の講習を受けた生徒をその地域へ派遣し、草刈りを行う。				
地域	山崎町加生地区、下牧谷地区他				
事業の効果	地域の弱体化、高齢者世帯が多い集落の増加により、元気のなくなりつつある宍粟市を活気付け生徒の自尊感情も高め、他者だけでなく、自分も大切にできる生徒の育成ができる。ひいては生徒たちが宍粟市に残り、また再び元気な宍粟市を作り上げてくれる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	令和5年 7月7日(金)	山崎高校周辺 (加生、市場、高下、 門前、鹿沢)	本校職員の下、3年生の生徒が通学路を中心にゴミ拾いを行った。	190	14
	令和5年 10月29日(日)	宍粟市山崎町 下牧谷の休耕田	本校職員、地域の方々の指導の下、参加生徒9名に対し刈払機の使用法と注意点について指導をし、休耕田の草刈りを実施。	9	3
	令和5年 12月12日(火)	山崎高校周辺 (加生、市場、高下、 門前、鹿沢)	本校職員の下、2年生の生徒が通学路を中心にゴミ拾いを行った。	157	14
	令和5年 12月15日(金)	山崎高校	本校にて防災体験活動を実施。消防署員の指導の下、AED体験、土嚢づくり、ロープワークを行った。また、生徒会役員を中心に大鍋を使った炊き出しを行い、参加者に試食をしていただいた。	515	52
	令和6年 2月2日(金)	加生地区	カップケーキ等の焼き菓子を作成し、避難支援者世帯に届け、健康状態などを確認する。	10	9



令和5年10月29日(日)休耕田の草刈り



令和6年2月2日(金)加生地区の避難支援者宅への焼き菓子配付



令和5年12月15日(金)防災体験活動の土糞づくり



令和5年7月7日(金)高校周辺の通学路清掃

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

<p>協働の相手方</p>	<p>加生地区自治会 下牧谷自治会 かしわの保育所</p>
<p>今後の展望</p>	<p>少子高齢化の進む宍粟市内において、これからも学校全体で、様々なアイデアを出し合い、地域の方々を元気づけながら、地域に貢献できる事業を考えていきたい。また、防災体験活動で、生徒会役員中心に炊き出しができたリ段ボールベッドを作成したりクイズをしたりすることが出来たので、これをさらに広げていきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 伊和高生 発酵のふるさとPR事業

団体名： < 県立伊和高等学校 >

所在： 宍粟市一宮町安積 616-2

代表： 校長 出口 勇人

目的	<p>宍粟市では、住民の高齢化が進むとともに児童・生徒数も急激に減少している。地域社会においては、核家族化や多様なライフスタイルの進展により、地域への愛着や連帯意識が希薄になることについて懸念されている。</p> <p>本校生徒が地域の伝統や文化、産業に触れる機会を増やし、地域の活動等に参加し、地域住民や地元企業、商工会・自治会、そして専門学校や大学と連携し交流することで、地域の特性や課題について理解を深め、ふるさと貢献の意識を高め、自らが主体的に学びを深め、地域の活性化の主役として貢献する人材育成を図る。</p>				
事業内容	<p>発酵について学ぶ 麴や味噌を作る みかしほ調理専門学校との調理実習 宍粟の歴史や地域課題について学ぶ 道の駅みなみ波賀への工場見学 道の駅みなみ波賀への商品開発アイデア提案 道の駅みなみ波賀での販売実習 みかしほ調理専門学校でのパネルセッション</p>				
地域	宍粟市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの伝統や文化、地域課題の解決に向けて関心が高まった ・ふるさと貢献の意識が醸成された ・地域の担い手としての意識が高まった。 ・関係機関と連携し、社会に繋がる実学を展開できた ・地域全体で本校生徒を育てる契機となった ・新聞記事等で取り上げていただき、発酵のふるさと宍粟のPRができた 				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	R5. 6. 1	本校調理室	麴づくり	21	4
	R5. 6. 8	〃	みかしほ調理専門学校との調理実習		
	R5. 6. 22	〃	味噌づくり		
	R5. 9. 21	道の駅みなみ波賀	工場見学、会社や宍粟について概要説明	20	5
	〃		プレゼン（商品提案）		
	R5. 10. 27 R5. 12. 7		プレゼン（2回目）		
R5. 12. 20 R6. 1. 18	本校調理室	試作品試食（1回目） 試作品試食（2回目）	19	5	
R6. 1. 17	本校社会科教室	マナー・接遇講座	18	5	

	R6.1.27	道の駅みなみ波賀	商品開発したものを販売する	18	5
--	---------	----------	---------------	----	---



協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅みなみ波賀 ・みかしほ調理専門学校 ・(有) グレイスプランニング ・地元で活躍する特別非常勤講師
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業等と連携し、常時販売され地元の貢献できる商品の開発 ・ふるさと活性化に向けた地元と協働したイベント実施 ・イベント実施による、観光客の誘致 ・授業時の体験活動（実学）の深化 ・

事業実施報告書

事業名： ちくさ地域力UPプロジェクト

団体名： < 兵庫県立千種高等学校 >

所在： 〒671-8201 宍粟市千種町千草 727-2

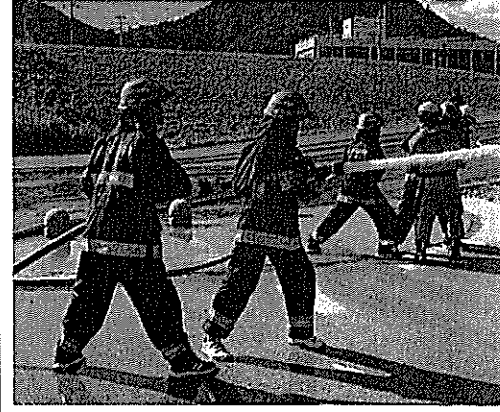
代表： 校長 菊川 泰

目的	<p>本校の所在地である宍粟市千種町は人口減少と少子高齢化が進行し、町内の小・中学校の児童生徒数も年々減少している。また、町内の商店街ではシャッターを下ろす商店が増えている。行政、商工会、自治会等がそれぞれ主体となって街の活性化に向け、様々なイベント等の取組みを行っており、それらを有機的に結びつける協議会も活動している。</p> <p>そこで、本校生がそれらと連携して行事等に参加し、地域の活力として寄与することで地域力UPにつなげることを目的として「地域交流」大切にしてきた。これら双方の取組みの融合により、本校の魅力ある教育活動の定着と千種町の発展に繋がることをめざす。</p>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元事業所と連携した就業体験 ・ 自治体主催行事における和太鼓の演奏 ・ 地元事業所、地域住民や小中学生と連携した特別栽培米づくりと活用 ・ 地域団体と連携した千種川の水生生物および水温調査を実施 ・ クリンソウの環境保全に向けた研究発表 ・ 地域行事におけるライフル競技の展示・体験、茶華道部によるお茶席、生徒会によるカフェ運営 ・ 商業施設における米の販売、米粉をもとに商品化し神戸市内におけるカフェ運営 ・ 大阪府立淀川商業高校との連携により米の販売・広報 ・ 園小中高ふれあい文化祭の実施 				
地域	宍粟市、神戸市、大阪府				
事業の効果	<p>本事業の取組みの一つである「お米づくり」で収穫したお米は、惜しくも賞を逃したが、その経験により、栽培法及び栽培時期の検討等を進めるなど、この事業に関わる者の意識の向上につながっている。</p> <p>地元事業所の協力をえて「ちくさの舞」を栽培し、その販路や調理法および加工法について取り組むなど6次産業化の方法について研究した。そのことにより、より多くの地域人材および地域資源が活用できた。次年度は、今年度の反省を踏まえた新たな実践を行うとともに、その活動を発信することで、千種町（宍粟市）のお米のブランド力を向上させたい。</p>				
事業経過（主なもの）	月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月26日	学校前圃場	小中高合同田植え	約80人	約10人
	10月22日	千種商店街広場	ちくさふれあいフェスタ	約1000人	約50人
	11月4日	千種小学校	園小中高ふれあい文化祭	約500人	約20人
	1月14日	ええとこセンター・道の駅	お米の販売実習	約20人	6人
1月27日	神戸市中央区	カフェ運営	約20人	10人	

5月26日 小中高合同田植え



9月22日 就業体験



10月22日 ふれあいフェスタ



10月18日 水生生物調査



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>【就業体験】 ちくさ杉の子こども園、千種小学校、千種中学校、千種市民局、ちくさ図書館、宍粟市消防本部、千草カントリークラブ、エーガイヤちくさ、鷹巣活性化委員会、虎猫編集室、ニチフレ千草（他宍粟市内7事業所）</p> <p>【米作りと活用】 地域農業指導者、地域住民、ちくさ学校給食センター、JAハリマ、道の駅南波賀、道の駅一宮、ちくさええとこセンター、大阪府立淀川商業高等学校、神戸新聞社</p> <p>【環境調査】 千種川を守る会、千種小学校、千種中学校</p>
今後の展望	<p>地域の協力体制や園小中高連携事業を軸とし、今後も高校生が地域住民と一緒にあって千種町を盛り上げていけるよう活動を継続させたい。</p> <p>特に今年度挑戦した、栽培した米を用いた料理の研究を通して、米の栽培、調理加工、製品販売を含む6次産業化の取組を、今後は地域の方々や町内のこども園・小中学校とともに進めていきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名：地域との連携・協働による伝統文化の継承と地場産業および地域の活性化

団体名：< 龍北総合D科後援会（龍野北高校総合デザイン科） >

所在：たつの市新宮町芝田 125-2

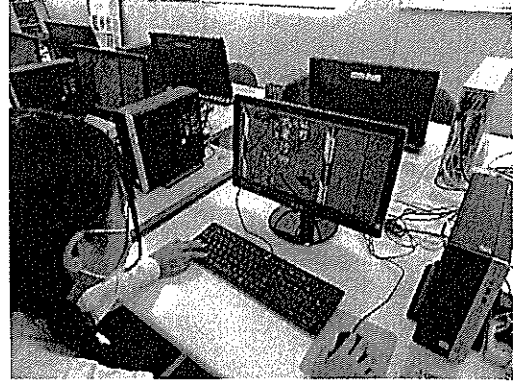
代表：塚原 敏

目的	1) 龍野武者行脚のPRのためのパンフレット・ポスターの制作等を通して、伝統文化への理解と継承を図る。 2) たつの市の地場産業である皮革の魅力のPRと皮革産業の活性化を図ること。				
事業内容	1) 龍野地区の地域づくり団体「かじょう会」と協働して、龍野武者行脚のPRのためのパンフレット・ポスターを龍野北高校総合デザイン科の生徒が制作し、伝統文化の理解、PRと継承のきっかけとする。 2) 様々な行事において皮革を使った焼きコテアート体験を通し、皮革の魅力をPRし皮革産業への関心を高める。				
地域	たつの市				
事業の効果	1) 龍野武者行脚のPRのためのポスターを高校生が制作し、PRすることによって、伝統文化の継承のきっかけとすることができる。 2) 地場産業の皮革を使用した体験活動を行うことによって、生徒の社会意識を向上させ、地域の行事に参加することで地域貢献に寄与する。また、皮革を使った作品を制作することによって、皮革に触れ、皮革を身近に感じる機会を増やし地域の地場産業の活性化につながる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	6月～8月	本校実習室	武者行脚のパンフレット・ポスター一案の作成	20人	14人
	8月～9月	本校実習室	皮革の型抜き作業	20人	20人
	9月～10月	本校実習室	武者行脚のパンフレット・ポスター一案の検討と改良	20人	14人
	11月	本校実習室 本校内	武者行脚のパンフレット・ポスター制作焼きコテアート体験	10人	20人
	2月	町ぢゅう美術館 会場	焼きコテアート体験 武者行脚パンフレット・ポスターの展示とPR	100人	20人

(1) 武者行脚のポスター作成工程
原案の作成 (8月)



ポスター制作 (10月)



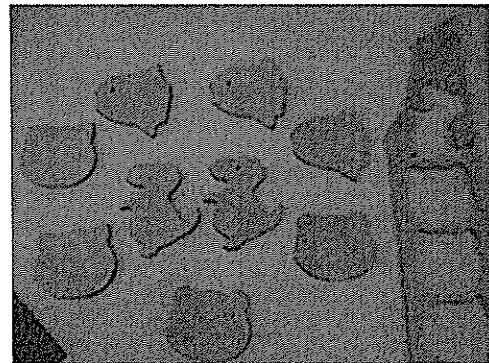
完成作品 (10月)



2) 焼きコテアート体験工程
皮革の型抜き作業① (8月)



皮革の型抜き作業② (9月)



焼きコテアート体験 (11月)



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	龍野地区の地域づくり団体「かじょう会」
今後の展望	1) 今回制作した龍野武者行脚のPRのためのパンフレット・ポスターは、地域の魅力を知るための良いきっかけとなったので、次年度からも本校総合デザイン科での取り組みを継続しようと考えている。 2) 皮革を使った焼きコテアート体験は、短時間で簡単にオリジナルの皮革アクセサリーを制作することができ、例年好評である。次年度以降も、様々なイベントの機会を活用して、この体験を行い地場産業の皮革のPR活動を兼ねて、地域の活性化に寄与していきたいと考えている。

写真



8月22日 店舗運営

写真



9月2日 配布用タグの作成

写真



11月3日 たつの市民まつり

写真



11月25日 たつのオータムフェスティバル

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方

- 兵庫県立龍野北高等学校総合デザイン科
- 兵庫県立龍野北高等学校総合福祉科
- 兵庫県立龍野北高等学校環境建設科
- 兵庫県立相生産業高等学校
- 兵庫県立佐用高等学校
- 兵庫県立上郡高等学校
- 兵庫県立香住高等学校
- 兵庫県立家島高等学校
- 兵庫県立播磨特別支援学校
- 兵庫県立社高等学校
- 龍野ライオンズクラブ
- たつの市下川原商店街

今後の展望

- ・「課題研究」を受講する3年生を中心に定時制の生徒全員で「高校生の店 龍北工房」の運営を行うことによって、校内の活性化を促す。
- ・たつのレザーを使用した商品を開発、作成、販売を行うことによって、龍野の地場産業の発展に寄与する。
- ・店舗所在地のたつの市下川原地区と協働し、地域に貢献する。
- ・協働できる相手をさらに開拓し交流機会を増やすことで、コミュニケーション力の向上を図る。

事業実施報告書

事業名： 地域をつなぐ相産定時制

団体名： <兵庫県立相生産業高等学校 定時制課程>

所在：相生市千尋町 10 番 50 号

代表：校長 魚住 啓明

目的	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりを通じた交流の機会を増やすことで、人口が減少傾向にある地域と学校とのつながりをより強固にする。 工業科目を学ぶ生徒の技術を活かしたものづくりで、地域に貢献する。 				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 本校が実施する学校行事（陶芸教室・防災学習会・課題研究成果発表会）を地域住民も参加できる内容で実施した。 ものづくりの楽しさを実感してもらう子ども向け「工作教室」を計画した。 安全標識は、飛び出し坊やに加え、小動物のバリエーションを増やして製作し、相生市危機管理課と連携し、設置区域を拡大させた。 				
地域	相生市 相生市千尋町自治会				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 本校が実施する学校行事にも地域住民に参加してもらい、また生徒が地域の行事（相生市もみじまつり）で工作教室をすることで、地域住民と生徒・教職員との交流の機会が増え、学校と地域、さらに住民同士のつながりも深まった。 千尋町連合自治会と合同で防災学習会を計画し、9月4日に実施できた。相生市なぎさホールで実践活動を2月12日に発表。 生徒の活動や製作物が地域に役立つとともに、生徒が達成感を得ることができた。 				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月	相生産業高校	・千尋町自治会役員との連絡、意見交換（今年度の計画など）	4	4
	6月・7月 7月14日 9月4日	相生産業高校	・安全標識の製作 ・こども工作教室の準備。 ・地域清掃活動（千尋町） ・防災学習会（千尋町と合同）	60	38
	10月5・6日	相生産業高校	・備前焼陶芸教室（地域住民と備前焼の陶芸教室の実施）	15	15
	11月12日	相生市 もみじまつり	・2023 羅漢の里もみじまつり 来場者対象に、こども工作教室の実施（製作数 35）	100	15
	1月24日	相生産業高校	・地域に公開した課題研究成果発表会を実施（1年間の取組を発表、意見交換）	60	38
	2月21日	相生市役所 相生市千尋町 自治会	・安全標識（飛び出し坊や他）を相生市危機管理課および学校近隣の千尋町自治会に寄贈、設置		

写真 令和5年11月12日
もみじまつり（工作教室①）



写真 令和5年5月～令和6年2月
安全標識の製作、相生市寄贈・設置



写真 令和5年11月12日
もみじまつり（工作教室②）

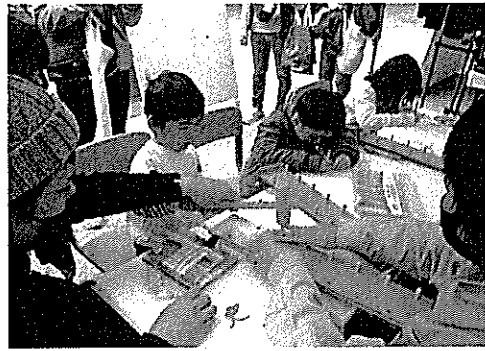


写真 令和5年9月4日
地域住民と取り組む防災学習



写真 令和6年1月23日
地域に公開した課題研究成果発表会



写真 令和5年10月5日・6日
備前焼陶芸教室で地域住民と交流



協働の相手方	相生市千尋町連合自治会 相生市
今後の展望	<p>相生市「2023 羅漢の里もみじまつり」では、工作教室が来場者に好評であった。</p> <p>安全標識は、バリエーションを増やして製作した。相生市役所危機管理課を通して、近隣の自治会へ寄贈し、有効活用してもらうことになった。</p> <p>工業科目を学ぶ本校生が技術を活かしたものづくりで地域に貢献することで、学校と地域のつながりを大切に、より一層、地域との交流や連携をしていきたい。</p>

(別紙4)

事業実施報告書

事業名： 播特発！「新たつのコミュニティ」の創生

団体名： < 兵庫県立播磨特別支援学校 >

所在： たつの市揖西町中垣内乙 135 番地 1

代表： 校長 藤井 生也

目的	<p>「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の充実したまち」が将来に対する高い要望であるが、少子高齢化により、地域コミュニティの維持が困難になることから、地域活力の活性化のための拠点づくりが必要である。地域資源を活用し、地域の企業の協力を得て、生徒が地域の方々への憩いの場とコーヒーを提供することで地域コミュニティの場を創生する。そして、地域住民との交流を通して、地域の方への障害理解を促すとともに生徒に地域社会の一員であることを自覚させる。</p>				
事業内容	<p>本校生徒がマックスバリュ龍野店舗において、以前、神戸芸術工科大学学生と共同で制作した店舗で「特定非営利活動法人いねいぶる」提供のコーヒーや市内の作業所の商品（クッキー）を販売することを通して、地域住民との交流を深め、地域社会の一員であることを自覚させる。9月、11月、12月、1月に店舗オープンさせるために、4月から計画的に練習を重ねながら、主体的に課題を発見し解決する姿勢を育てていく。</p> <p>そして、従来から行っている近隣の小学校との交流会は、相手校のインフルエンザ感染で延期もあったが、2校の小学校と予定通り交流を図ることができた。</p>				
地域	たつの市				
事業の効果	<p>地域社会に対して、憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解が深まった。今年初めて担当する生徒も多いが、お客様からのお礼や励ましの言葉掛けに笑顔を見せ勇気もらい、積極的に声掛けを行うようになっていた。また、昨年も経験した生徒は、落ち着いてお客様と接することができ、回数を重ねることで経験を深め、よりよい交流の機会となり、自信を深めることに繋がった。しかし、本年度は4回の実施となり大幅に回数が減少したため、生徒も各1回の店舗経験となってしまい、本来重視したい十分な経験ができなかった。</p> <p>一方、小学校との交流及び共同学習では、製作活動や清掃活動を通して、短い時間の中で児童と生徒がお互いに声を掛け合いながら取り組み、貴重な体験とすることができた。</p>				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	4月～2月	本校	「Café はりま」の打合せ、練習	7	4
	9月13日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	11月8日	兵庫県立播磨特別支援学校	本校製作実習体験による交流	32	15
	11月22日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	12月6日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	4

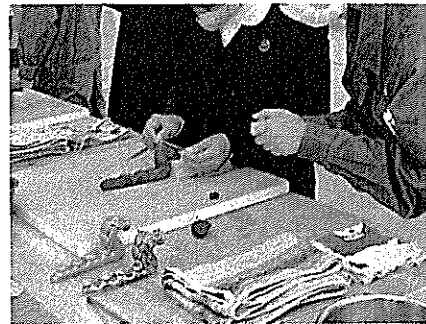
	1月17日	マックスバリュ ユ龍野店	「Café はりま」の営業	7	4
	1月24日	たつの市立 揖西西小学校	清掃活動による交流	15	4

写真



9月13日(水)「Café はりま」の営業
場所 マックスバリュ龍野店
内容 開店初日

写真



11月8日(水) 揖西東小学校との交流
場所 播磨特別支援学校
内容 授業体験(工芸技術コース)

写真



9月20日(水)「Café はりま」の練習
場所 播磨特別支援学校 自活室
内容 練習

写真



11月30日(木)
揖西西小学校
との交流

場所
たつの市立
揖西西小学校

内容
モップの指導

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の 相手方	マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ龍野店 NPO 法人 いねいぶる
今後の 展望	地域社会に対して、ドリンクの提供や市内の福祉作業所などの商品を販売を通し、定期的に憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解をさらに深めることができた。生徒にとっても地域を知り、また、地域の方々とコミュニケーションをとるきっかけづくりとすることができている。しかし、店舗が遠方なため交通費の負担が大きいこと、単純に回数を増やすとが行事が過密になり本校で行っている教育活動に支障がある、または職員の負担が増加する、何より少ない回数では教育的な効果が見込めないなど解決すべき課題は多い。次年度も地域コミュニティの場として継続して活動していく予定であるが、学校全体を見通しての事業転換が必要になってくる。

事業実施報告書

事業名： 自然科学わくわく探究教室

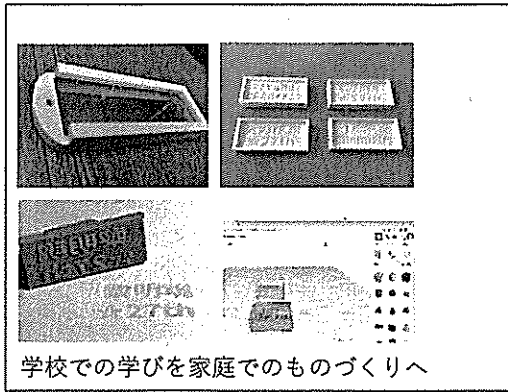
団体名： < 兵庫県立大学附属高等学校自然科学部 >

所在：兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部

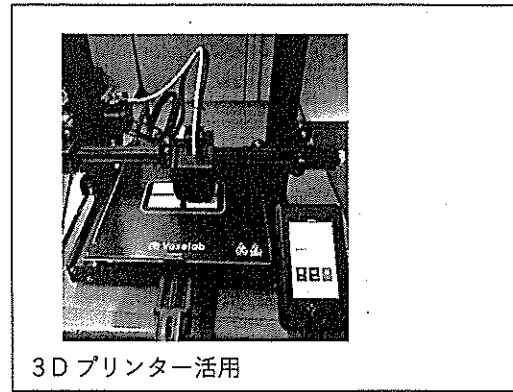
代表：校長 泉村靖治

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びを地域貢献につなげる効果的な方法を開発する。 ・学校周辺地域の自然環境の調査を行い環境保全への取り組みにつなげる。 ・活動を通じて得た成果や、課題を解決するためのアイデアを発信する。 				
事業内容	<p>① 学校で身に付けた知識やスキルを、家庭用3Dプリンターを活用したものづくりへ発展させるワークショッププログラムを開発する。家庭で行うことができるプログラムを目指し、学んだ知識やスキルを活用して、家族や友人と試行錯誤を楽しむことができる。本プログラム活用を通して創造力や課題解決能力が育まれ、地域社会の問題解決につなげる資質・能力が培われる。</p> <p>② 西播磨地域の自然環境の調査活動を行う。活動を通じて、地域の豊かな自然の価値に気づき、そして高めることを目指す。また、自然環境調査に基づき、持続可能な社会を目指した、環境への負荷を減らすことにつながる物質の開発を行う。</p> <p>③ 活動の成果を積極的に発信し、他校や地域社会と共有する。また、探究活動の成果をワークショップ教材としてまとめ、交流や連携を深めることも目指す。</p>				
地域	西播磨地域				
事業の効果	<p>①SDGs や STEAM 教育と結びつけたワークショッププログラムの研究・開発 「学校での学び(自然科学など)」を「家庭でできるものづくり」と結びつけたワークショッププログラムの開発に取り組んだ。学校で得た知識やスキルを、家族や友人と相談しながら、工夫や試行錯誤を楽しみ、そして課題をクリアしていく達成感を味わうことができるワークショッププログラムの開発を進めることができた。</p> <p>②SDGs に関わる調査・研究の発信 SDGs に関わる研究成果をポスターセッションにて発信した。「廃棄されてしまうものを有効活用したい」というコンセプトのもと、廃棄される牛乳に着目し、「牛乳プラスチックで植木鉢を作りたい」というテーマを掲げ、牛乳を材料に用いた生分解性プラスチックを作成し、土に還元される園芸鉢の開発を試みた。その取り組みを NIKKEI STEAM SYMPOSIUM のポスターセッションの部門で発表し、SDGs に対する取り組みとして、社会や地域への情報発信、さらに 情報交換を行うことができた。</p>				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	通年	本校	SDGs や STEAM 教育と結びつけたワークショッププログラムの開発 <ワークショッププログラム> ・銀鏡反応×コンパクトミラー ・周期表×パズル ・高分子化合物×スタンプなど		生徒3
	通年	本校	SDGs テーマの研究 「牛乳プラスチックで植木鉢を作りたい」		生徒7

7月19日	大阪国際交流センター	ポスター発表 「牛乳プラスチックで植木鉢を作りたい」	生徒7
-------	------------	-------------------------------	-----



学校での学びを家庭でのものづくりへ



3Dプリンター活用

No.	1
タイトル	Timercad を活用して3Dデザインをモデリングするタブレットスタンドをデザインする
目的	3Dプリンターで印刷する前に、必ず目録表 Timercad を使って3Dデザインをつくる。
基礎	パソコン・マウス・インターネット
事項	<p>①Timercadに接続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. http://www.timercad.comへアクセスして登録。Timercad IDとPWをインストールすると自分の作品一覧ページが表示される。(※自設)ボタンをクリックすると、作業画面が表示される。 2. 既存ボタンはウェブ上に自動的に保存されている。 3. 自分の名称はページの右上にあり、クリックすると名称の変更ができる。また、最後のリストボタンをクリックすると、印刷の作成化。これまでの作品リストに接続できる。 <p>②モデリング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 右側のさまざまなレイアウトをクリックし、作業画面にそれぞれをクリックするとレイアウトが表示される。 2. レイアウトの右の窓をクリックするとさまざまなサイズに変更できる。また、表示されたサイズの値を変更をクリックすると任意の数値が打ち込める。 3. ボックスと円柱の組合せでタブレットスタンドのモデリングが完成。 4. 使用したレイアウトはボックス、円柱、円筒厚みの3つ、サイズを変更してそれぞれのレイアウトをつまみあげて、「Shift」を押しながらそれぞれのレイアウトを選択し、

ワークショッププログラム

牛乳プラスチックで植木鉢を作りたい！

日経 STEAM シンポジウム 2023/7/19

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	日経 STEAM シンポジウム
今後の展望	<p><学校での学びを地域にいかす取組み> 学校での学びを地域にいかすワークショップの企画・運営や解説書づくりに取り組む。</p> <p><活動フィールドの拡大> 各種シンポジウムへの参加や、さまざまな附置施設への訪問、調査範囲の拡大などにより活動の場を広げる。</p> <p><外部講師の活用> 地域住民や専門家との連携・協働を活発化させ、地域社会の課題を見つけ、学校での学びにつなげる。</p>



令和5年度地域づくり活動応援事業（高校生枠）
実績報告集

（令和6年2月現在）

発行 兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25

TEL:0791-58-2124/FAX:0791-58-0523